

ムンプス再感染例とワクチン後 ムンプス罹患例の検討

にし の やす お
西 野 泰 生

キーワード：ムンプス再感染，二次性ワクチン不善 (SVF)，
ワクチン後ムンプス，ムンプス EIA 抗体

要 旨

4歳から11歳（中央値年齢7.3歳）までの症例を対象にムンプスの再感染を EIA 法による抗体検査を中心に検討した。

明確に再感染を証明できたのは8歳女児のみであったが，他の2例は不顕性感染後の再感染と推測された。またワクチン後の二次性ワクチン不善 (SVF) による症例も6例みられ，抗体検査で再感染パターンを認め，一部ではウイルス検査陽性であった。

抗体反応は IgM 抗体陰性～疑陽性，IgG 抗体の有意上昇を示すパターンであり，またウイルス培養検査も診断的には有用であった。年長児，ワクチン接種例の耳下腺炎，耳下腺炎既往症を有する症例については EIA 法による IgM 抗体検査によって再感染の手がかりをつかむ必要がある。ムンプスの再感染は極めて稀とされるが，今回の経験から開業医の外来では検出可能な疾患と考えられた。

はじめに

流行性耳下腺炎（ムンプス）は日常診療においてはきわめて一般的な疾病であるが，時に非定型例や再感染を疑わせる症例に遭遇し診断に苦慮することがある。今回は最近経験したムンプス再感染例とムンプスワクチン後の secondary vaccine failure によるムンプス罹患例を併せて検討したので報告する。

1. 対象および検索法

1998～2007年にムンプス IgM (EIA) 抗体を検討した唾液腺腫脹例を対象に再感染を検討した。ムンプス再感染については IgM 抗体陰性あるいは疑陽性例の IgG 抗体を検索し，再感染パターンを示した症例を選択した。IgG 抗体は初回採血後5～29日に再検したが，抗体検査は IgM，IgG 抗体とも SRL に依託した。同時に9例中8例について口腔ぬぐい液を採取し，島根県保健環境科学研究所において細胞培養によるウイルス検査を行なった。なお IgM 抗体の判定基準は陰性0.80未満，疑陽性0.80～1.20，陽性1.21以上であ